



北前船と加茂地区の海洋文化



「海を守る人づくり」 Protect the sea

海洋技術科 航海系 高橋滉平 堀拓磨 佐野一馬

目的

加茂港は、日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間—北前船寄港地・船主集落」に追加認定された。そこで、北前船が加茂にもたらした海洋文化について調査し、加茂の歴史や魅力について探り、加茂地区活性化運動「加茂グランドデザイン」と連携・協力する。

調査方法

- ・書籍・HP・史跡調査
- ・郷土史研究家 升川 繁敏先生より聞き取り

調査・活動内容

1. 北前船とは？

①船の形ではなく、西廻り航路を通る船

大阪と北海道を西廻りで行き来した船



加茂港図



加茂沖弁財船 (約100年前)

4. 北前船(弁財船)のその後(衰退原因)

- ・日露戦争により航行が困難になったため物流は、海の道(船)から陸の道(鉄道)へと変わった
- ・近代化により木造船が使われなくなった
- ・通信網の整備 加茂郵便局電信事務取扱開始(明治23)
(全国の相場がわかるようになった)

②寄港地での売買と仕入れをする買積船

③北前船最盛期は、江戸時代中期1740年頃～1890(明治20年代)、の約150年間 (加茂港 平均200隻/月入港)

- ・北前船は買積船を総称する呼び名(海の総合商社)
下り船:百両 上り船:九百両 ニシン(肥料)等
- ・北前船の呼称は関西方面、地元では「大船」「弁財船」と呼ばれている



泊町の大黒舞



升川先生より講義・聞き取り

北前船の乗組員が伝承 船置祭で踊っていた

2. なぜ加茂港が北前船の寄港地になったのか

- ・鎌倉時代から交易の港として栄えていた

3. 北前船が加茂地区にもたらしたもの

- ・物流・産業の確立 加茂坂峠新道 加茂隧道 岡町川の水運 人の往来・交通が発展
- ・廻船問屋34軒
- ・寺14ヶ所 (現在加茂に寺9、神社4)
- ・船乗りの信仰 善宝寺 五百羅鑑堂 (西の金毘羅 東の善宝寺)
- ・「酒は大山」 出羽の雪酒造 生産量増大 加茂坂峠古道 背負子馬で運搬
- ・泊町の大黒舞 1斗6升(30Kg)
- ・漁業による繁栄 北洋漁業の先駆者 (漁業の中心地)
- ・県水産試験場・栽培漁業センター設置・造船所
- ・県立水族館・県立水産高校の創設・測候所

5. 加茂地区の活性化について

1. 地元を知る(加茂地区の歴史)

江戸時代から明治前半、加茂港は北前船の寄港地として酒田に次いで繁栄。明治に入り、加茂港を中心として山形県の漁業が発展。魚が大量に獲れ、海を生活の場として賑わいや活気があり、**加茂は豊かな町であった。**遊郭(緑町)もあり、船大工や職人も多く住んでいた。現在は、漁業者の減少・漁獲量の減少が続く。**しかし、庄内の海はきれいで、四季を通じて美味しい地魚を食することができる(鶴岡市はユネスコ食文化創造都市に認定)。**しかし現在は漁業も衰退し海洋産業は見当たらない。

2. 加茂地区の活性化(提案)

- 1) 歴史をPR、小冊子を作成し、水族館と北前船・漁業の町として観光地化する。
- 2) 加茂港整備・再編利用促進
加茂港に鳥海丸・最上丸、プレジャーボート等多くの船が入港できる環境整備を行い海からの往来の復活を目指す
- 3) 加茂地域の県水産試験場・加茂水族館・加茂水産高校・樹協和丸との連携した事業作成
- 4) 保育園・幼稚園・義務教育で「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」海洋教育を実施、地元の児童・生徒に庄内の海に興味・関心を持ってもらい起業家を育てる。
- 5) 加茂水産高校がユネスコスクールに加盟し、SDGs14・SDGs11に取り組み、ネットワークを構築し、地域と連携・活性化
(山形県海洋教育促進拠点の形成)

加茂地区が発展していくためには、海との共存が必要である。



極楽寺



少林寺 山門 大船の木材を再利用

